

## 知床五湖の利用のあり方協議会（第 41 回）議事録

日 時：2020年2月14日（金）10:00～12:00

場 所：知床世界遺産センター レクチャールーム

議 題：

### 【報告事項】

- 1) 2019年度 知床五湖利用調整地区の運用結果について
- 2) 審査部会の議論結果について

### 【決議事項】

- 3) 利用適正化計画の改定について
- 4) 2020年度 知床五湖利用調整地区の運用計画について

### 【協議事項】

- 5) 利用調整地区 10 周年事業について
- 6) その他

資料：

- 資料 1－1 2019年度 知床五湖利用調整地区の運用結果について
- 資料 1－2 2019年度 ヒグマ活動期の運用結果について（詳細）
- 資料 1－3 2019年度 知床五湖ローカル割引キャンペーンの実施結果について
- 資料 1－4 2019年度 知床五湖利用調整地区 指定認定機関 収支決算書
- 資料 2 前回の登録引率者審査部会（第 32 回）の議論結果について
- 資料 3－1 利用適正化計画の改定について
- 資料 3－2 知床五湖利用調整地区利用適正化計画（第 3 期）（案）
- 資料 3－3 2020年度 知床五湖モニタリング実施計画（案）
- 資料 4－1 2020年度 知床五湖利用調整地区の全体スケジュールについて
- 資料 4－2 2020年度 ヒグマ活動期の運用計画について
- 資料 4－3 2020年度 小ループ・当日受付事業計画について
- 資料 5 利用調整地区 10 周年事業（案）

- 参考資料 1 2019年度 知床五湖園地の来園者数について
- 参考資料 2 2020年度 知床五湖登録引率者 新規養成募集チラシ
- 参考資料 3 2020年度 登録引率者養成研修・登録・更新のスケジュール
- 参考資料 4 2019年度 知床五湖歩道浸食状況モニタリング調査結果について
- 参考資料 5 地上遊歩道の再整備スケジュールについて
- 参考資料 6 第 32 回知床五湖登録引率者審査部会 議事概要（2020.1）
- 参考資料 7 第 40 回知床五湖の利用のあり方協議会 議事録（2019.9）

議事録：

**環境省（渡邊）**：定刻になったので、第 41 回知床五湖の利用のあり方協議会（以下、あり方協議会とする）を開始する。昨年度のあり方協議会は 1 回の開催であったが、今年度は利用適正化計画の改定作業のため、9 月にすでに 1 回目を開催しており、今回が 2 回目となる。前回のあり方協議会では、利用適正化計画の改定案をお示しし、ご意見を頂いたところである。今回はその修正をふまえ計画を確定させ、来年度から実行に移したいと考えている。その他、登録引率者の養成研修の状況や五湖園地の施設運営のあり方についても議題としている。忌憚のないご意見を頂きたいと願います。

### 1) 2019 年度 知床五湖利用調整地区の運用結果について

資料 1-1 2019 年度 知床五湖利用調整地区の運用結果について（説明 / 知床財団）

資料 1-2 2019 年度 ヒグマ活動期の運用結果について（詳細）（説明 / 知床財団）

参考資料 1 2019 年度 知床五湖園地の来園者数について（説明 / 知床財団）

- ✓ 植生保護期（春）の立入認定実績は 8,664 名と、例年の 2~3 倍の水準となった。10 連休があったことが増加の大きな要因といえる。また、同時期は積雪が問題となるが、今年度は融雪が早く、5 月 6 日に大ループが開放したことも認定者数が増加した要因となった。
- ✓ ヒグマ活動期における立入認定実績は 16,080 名と過去最高となり、制度開始の初年度と比較すると、1 万人近く認定者数が増加した。
- ✓ 植生保護期（夏）の立入認定実績は、40,277 名と、昨年度比で 15%の減少となったが、繁忙期である 8 月上旬までヒグマの出没が継続したことにより、地上遊歩道を閉鎖している期間が長かったことが要因である。
- ✓ 地上遊歩道でのヒグマの遭遇件数は急増した。遭遇件数はヒグマ活動期を中心に増加している傾向ではあるが、植生保護期の遭遇件数においても増加の傾向が見られる。
- ✓ 知床五湖の来園者数は約 33 万人と、昨年度比で 10%程度増加している。近年は 30 万人が来園者数の基準と考えている。ここを大きく割らないことが重要との認識である。
- ✓ ヒグマ活動期の立入申請組数は 1,878 組で、昨年度と同水準となった。認定者数は 16,080 名、昨年度比 106%で過去最高数を記録し、1 ツアーあたりの参加人数が増加していることが要因となった。
- ✓ ヒグマ活動期のヒグマ遭遇件数は 186 件で、昨年度比 208%となり、過去最多件数となった。一方、ツアー中止件数は 25 件と昨年度同値であった。制度上、引率者がツアーを中止しなければ、ヒグマが滞留している場合でも利用可能となる。安全対策の面で懸念があるという指摘もある。

資料 1-3 2019 年度 知床五湖ローカル割引キャンペーンの実施結果について（説明 / 知床財団）

資料 1-4 2019 年度 知床五湖利用調整地区 指定認定機関 収支決算書（説明 / 知床財団）

- ✓ 2019 年度知床五湖ローカル割引キャンペーンについて、2011 年度より継続的に実施している斜里町及び羅臼町民の立入認定手数料の割引に加え、両町民の知床五湖の駐車料金の割引を今年度より新たに実施した。これらのキャンペーン概要を知床五湖 HP に掲載したほか、両町の地域広報誌にチラシを折り込み、周知広報を行った。
- ✓ 認定手数料割引キャンペーンの利用者数は 151 組 315 名（昨年比 155%）の実績となり、実施に係る直接経費は 85,050 円となった。
- ✓ 駐車料金キャンペーン利用台数は 240 台、キャンペーン実施にかかる負担額は 10 万円となった。
- ✓ 来年度も継続する方向で進めるが、駐車料金キャンペーンにかかる事業負担が大きいため、費用負担の分担をお願いしたい。
- ✓ 今年度の指定認定機関収支決算書について、収支決算額は 426,958 円の赤字となった。認定手数料収入は当初予算比 94%にあたる 19,281,550 円であるが、8 月上旬に地上遊歩道が継続的に閉鎖となったことが収入減の要因とされる。直接経費を抑えることで支出を減らす努力を行った。

環境省（渡邊）：キャンペーンが好評だったが、知床財団の負担が大きいと聞いている。今後の費用負担のあり方として、自然公園財団にも協力をお願いしたいとあったが、ご意見あるか。

自然公園財団（古坂）：好評だったということもあり、来年度の駐車料金キャンペーンは当財団も協力する形で進めていきたいと考えている。

## 2) 審査部会の議論結果について

資料 2 前回の登録引率者審査部会（第 32 回）の議論結果について（説明 / 斜里町）

参考資料 2 2020 年度 知床五湖登録引率者 新規養成募集チラシ（説明 / 斜里町）

参考資料 3 2020 年度 登録引率者養成研修・登録・更新のスケジュール（説明 / 斜里町）

- ✓ 養成研修と試験の結果、来年度の引率者登録は 34 名を予定している。
- ✓ 園地開園時間と施設開館時間の足並みを揃えるため、開園から 7 月 31 日までの五湖 FH 開館時間を 7:30 から 8:00 に変更する提案が知床財団よりあり、審査部会にて合意を得た。
- ✓ ヒグマ活動期の期間、五湖 FH 閉館時間を 18:30 から 18:00 に変更する提案が知床財団よりあった。閉館時間の変更に伴い、一部ツアー時間枠の縮小が見込まれる点について反対意見があり、審査部会では合意が得られなかったため、あり方協議会で再協議することとなった。
- ✓ 2011 年から 2019 年のヒグマ活動期のヒグマ出没状況のとりまとめ結果が共有された。
- ✓ 近年のヒグマ目撃件数の増加傾向を受け、来年度から地上遊歩道での自動撮影カメラの設置やツアー無線交信の音声録音を行い、ヒグマの出没状況やツアーの運用状況の検証を進めることとした。

環境省（竹原）：資料 2 について、開園の 4 月 20 日からヒグマ活動期終了の 7 月 31 日までの五湖 FH 開館時間を変更する提案の記載について、審査部会で取り扱う期間はヒグマ活動期のみとなるため、合意の対象期間をヒグマ活動期の 5 月 10 日に修正をお願いしたい。

環境省（渡邊）：登録引率者の新規養成募集については、現時点で 1 名の応募がある。その他に 3～4 名の問い合わせがあった。

環境省（渡邊）：ヒグマの出没件数が近年増加傾向にあることを事務局として危惧している。事故が発生した場合、利用調整地区制度・観光全体に影響を及ぼすことになる。現状の記録や検証を行うために自動撮影カメラの設置や無線録音等を今後行い、方向性を検討していく予定である。

### 3) 利用適正化計画の改定について

資料 3-1 利用適正化計画の改定について（説明 / 環境省）

資料 3-2 知床五湖利用調整地区利用適正化計画（第 3 期）（案）について（説明 / 環境省）

資料 3-3 2020 年度 知床五湖モニタリング実施計画（案）について（説明 / 環境省）

参考資料 4 2019 年度知床五湖歩道浸食状況モニタリング調査結果について（説明 / 環境省）

- ✓ 利用適正化計画の変更について前回協議会で、秋の自由利用期を植生保護期に変更することで合意したため、それを反映する形で告示の変更手続きを実施した。
- ✓ パブリックコメントを 11 月 20 日～12 月 19 日まで実施し、2 月 10 日に官報に告示された。これを受け、2020 年度より第 3 期の利用適正化計画の運用を開始することとなる。
- ✓ 利用適正化計画については、前回協議会で出された意見をもとに修正を行った。
- ✓ モニタリングは、2018 年度から継続的に実施している事項を踏襲する形で 2020 年度も実施する予定である。また、新規モニタリング項目として、インターバルカメラを遊歩道上に設置し、ヒグマの出没状況の把握を試行する予定である。
- ✓ 2012 年度からモニタリングを継続している歩道浸食状況について、大きな変化は見られなかった。

知床財団（秋葉）：自由利用期が無くなるため、周知広報にご協力をお願いしたい。また、第 3 期計画は 5 年間で一つの区切りとして運用を行うこととなる。計画的なモニタリングが重要である。

環境省（渡邊）：利用調整地区の運用には、データに基づき、必要に応じて制度を見直す、いわゆる順応的管理を基本としている。そういった意味でもモニタリングは非常に重要であると環境省として認識している。計画的にモニタリングを実施し、点検と見直しの議論を進めて参りたい。

#### 4) 2020 年度 知床五湖利用調整地区の運用計画について

資料 4-1 2020 年度 知床五湖利用調整地区の全体スケジュールについて（説明 / 北海道）

資料 4-2 2020 年度 ヒグマ活動期の運用計画について（説明 / 北海道）

- ✓ 2020 年度の植生保護期は 4 月 20 日～5 月 9 日、8 月 1 日～11 月 8 日に、ヒグマ活動期は 5 月 10 日から 7 月 31 日とする。開園は 4 月 20 日 11:00 に、閉園を 11 月 8 日 16:30 にそれぞれ設定した。
- ✓ 2020 年度の遊歩道整備区間は小ルートと大ルートの一部を予定している。工事期間は 10 月 1 日～1 月 31 日で、知床五湖厳冬期ツアーに支障のないように進める。
- ✓ 審査部会の議論を受け、ヒグマ活動期の開園時間を 8:00 に繰り下げ、五湖 FH 閉館時間を 18:00 に繰り上げる案を提案する。近年のヒグマ出没件数増加に伴い、現場の事務負担の軽減やサービス提供時間の統一が主な理由である。同期間のレクチャー時間も 30 分繰り下げ、8:10 レクチャーから開始する提案がなされた。
- ✓ また、知床ガイド協議会より、小ルートの参加料金を大人が 3,500 円、小人が 2,000 円とそれぞれ値上げすることが提案された。

環境省（竹原）：資料 4-1 の 4 月 20 日～5 月 9 日の園地開園時間・五湖 FH 閉館時間の変更提案について、「審査部会提案」となっている箇所を「知床財団提案」と修正をお願いしたい。

知床斜里町観光協会（喜來）：閉園時期は例年 11 月 8 日となっているのか。

環境省（渡邊）：2018 年より 11 月 8 日で閉園することとしており、今年度もこれに倣っている。

知床斜里町観光協会（喜來）：園地内に入ることもできないのか。

公園財団（古坂）：閉園以降は五湖とカムイワッカの分岐付近の町道路上にバリケードを設置している。

知床財団（秋葉）：以前は道道公園線の岩尾別ゲートの閉鎖をもって閉園としていた。現在は施設の管理や凍結防止の観点から、道道の冬期閉鎖と関係なく 11 月 8 日を閉園日としている。

知床斜里町観光協会（喜來）：植生保護期（春）のレクチャーの開始を 30 分繰り下げる提案について、知床財団の勤務時間の負担軽減という事情だけでなく、7:40～8:00 の時間帯にどれだけの利用があったのか、納得できるデータを示していただきたい。

知床財団（岡本）：2018 年度 4 月 20 日～5 月 9 日の 7:40 開始レクチャーの平均受講者数は 1 名、7:50 レクチャーは 2 名、8:00 レクチャーは 2 名であった。2019 年度の 7:40 開始レクチャーの平均受講者数は 5 名、7:50 レクチャーは 11 名、8:00 レクチャーは 6 名であった。2017 年度以前は、2018 年度の実績と概ね変わらない。

**知床財団（秋葉）：**補足となるが、今の説明は 4 月 20 日～5 月 9 日までの期間の平均受講者数を示している。5 月 10 日以降のヒグマ活動期においては、8:10 が初回のガイドツアー出発時刻となるため、五湖 FH 開館時間を 8:00 に変更してもツアーの運用に影響がない。開館時間の変更については、園地施設の足並みを揃えるため 8:00 とする提案をした。

**環境省（渡邊）：**まずは、園地開園時間を 8:00 に繰り下げる提案に了承いただけるか。

一同：了承。

**環境省（渡邊）：**ヒグマ活動期の五湖 FH 閉館時間を 18:00 に変更する提案だが、15:10～15:30 に出発する 3 本のガイドツアーの五湖 FH 帰着時刻が 18:00 を過ぎてしまうことから、審査部会では継続協議案件とした。運用方法として、五湖 FH での来館者対応等のサービス提供は 18:00 で終了し、ツアーの運用や帰着受付のみ継続する等のアイディアがあった。知床財団から補足等あるか。

**知床財団（秋葉）：**五湖 FH 閉館時間に伴い、15:10～15:30 のツアーを安易に減らすことは本意ではなく、現場の勤務体制の改善が目的である。ガイドツアーの運用は 18:30 まで続けつつ、施設としてのサービスは 18:00 で終了する案が良いと考える。18:00 以降も安全管理やツアーの帰着受け入れは可能である。

**知床財団（岡本）：**2019 年度の 15:10～15:30 のガイドツアー催行率を補足説明する。5 月は 14%、6 月は 27%、7 月は 49%となっている。このことから、五湖 FH 閉館後であっても、ツアー帰着報告の受け入れ等は可能である。また、閉館が繰り上がることで、経理事務等に早めに取り掛かることができる。

**環境省（渡邊）：**五湖 FH の 18:00 閉館の提案について、意見等あるか。

**知床斜里町観光協会（喜來）：**知床ガイド協議会と協議は進めているのか。

**知床財団（岡本）：**施設管理に関する話題であるため、直接協議はしていない。

**環境省（渡邊）：**前回の審査部会においては、知床ガイド協議会も含め、18:00 以降のガイドツアーの運用に支障がなければ、問題ないという確認がとれている。

**知床斜里町観光協会（喜來）：**閉館後に帰着したツアー参加者への案内や応対に不備がないように、しっかりと知床ガイド協議会と知床財団とで協議して頂きたい。

**環境省（渡邊）：**ガイドツアーの運用に支障がないことを条件に、五湖 FH 閉館時間を 30 分繰り

上げ 18:00 に変更する提案について了承いただけるか。

一同：了承。

資料 4-3 2020 年度 小ループ・当日受付事業計画について（説明 / 知床財団（ガイド協議会代理））

- ✓ ヒグマ活動期ガイドツアーへの参加は事前予約が前提となるが、制度を知らずに来園した利用者への対応策として、当日受付の統一窓口を知床ガイド協議会が 2012 年度より開設している。2014 年度からは、同業務を知床財団に委託して継続しているが、統一価格のあり方や運営経費の捻出に課題が発生している。
- ✓ 運営経費を捻出し継続的に事業を実施するため、2020 年度は大ループと小ループの当日受付料金を 500 円～1,000 円の幅で値上げさせていただきたいと考えている。

環境省（渡邊）：当日受付事業に関して、知床財団としてコメントはあるか

知床財団（秋葉）：知床ガイド協議会には委託費の増額を求めた。現行の委託費は赤字であり、継続的に実施できないためである。この事業自体は、知床ガイド協議会が行う事業であり、事業内容の変更についてあり方協議会の合意が必ずしも必須ではないが、公益性も高いため、地域の合意をもって進めたいというのが知床ガイド協議会の意思である。

知床斜里町観光協会（喜來）：値上げに対し否定的な意見はないが、現地引率者がいないためツアーの当日受け入れを行えなかったという事案が過去に発生したと記憶している。ツアー料金を見直すということであれば、ヒグマ活動期の期間中は知床ガイド協議会から最低 1 人以上の引率者を配置し、受け入れ態勢を強化するといった利用者サービスの向上に配慮をすべきである。

環境省（渡邊）：今年度は引率者が不在といった事案は発生したか。

知床財団（秋葉）：ヒグマ活動期のガイドツアーは事前予約を前提としていて、事前予約がないツアー枠は引率者が不在というのが制度の特徴である。全ての当日ニーズに対応しようとすれば、事前予約をしていないツアー参加希望者が来園するたびに対応する引率者が必要となる。

知床財団（秋葉）：現在は、既存のツアーの空席に当日希望者を案内している。当日希望者の利便性をどこまで上げるかは戦略的に考える必要がある。常に当日参加が可能というシステムにすれば、事前予約の前提が崩れてしまう。現場として最大限の努力はするが、予約無しにいつでも待たずに参加できるというサービスは望ましくない。小ループについては、担当引率者がいるため、催行確定のガイドツアーとなっている。

**知床温泉旅館協同組合（桑島）：**ガイドツアー参加者の満足度はどうか。

**知床財団（秋葉）：**アンケート調査を実施しており、満足度が極めて高いという結果が出ている。一方、ガイドツアーに参加できなかった利用者や大ルートツアーに参加しなかった利用者の声を気にする必要性を感じている。また、価格を上げることで満足度に影響するかどうか、知見があれば教えて頂きたい。

**環境省（渡邊）：**資料 4 - 3 では大ルート当日受付・小ルートツアー料金の値上げ額を 500 円～1,000 円と幅を持たせた提案となっているが、知床ガイド協議会は 1,000 円の値上げを希望している。値上げについてご意見あるか。

**知床温泉旅館協同組合（桑島）：**利用者の満足度が高いのであれば値上げ自体に問題はないと思うが、事前予約のツアー料金が事業所によって異なるのは良くない。引率者個人の経験年数や利用評価によって料金が異なるのであれば納得するが、事業所によって異なるのは違和感がある。

**環境省（渡邊）：**補足だが、当日受付のツアー料金は、統一設定されている。

**知床財団（秋葉）：**個人的には、価格は多様であった方が良く考えている。絶対額の多寡よりも料金体系を多様にした方が良い。グループで参加する際や時間、参加日で料金が異なっても良いと思う。また、引率者の能力や経験が価格に反映することが目標である。例えば、外国語能力の高い引率者の収入は上がることが望ましい。

**知床温泉旅館協同組合（桑島）：**最近の宿泊客傾向として、予約をしない来訪者が増えている。特にそういった宿泊客は連泊していることから、天候等の条件を見て参加を判断する利用者が今後増えることが予想される。秋葉氏が指摘するように、インセンティブに差を設ける等のやり方が考えられる。

**環境省（渡邊）：**当日受付事業で取り扱う各ツアー料金の値上げ額については、知床ガイド協議会提案の 1,000 円でご了承いただけるか。

**知床斜里町観光協会（喜來）：**少額ずつではなく、大幅な値上げをし、5 年程度の運用実績を踏まえ検証を行うのが良い。

**知床民宿協会（松田）：**知床五湖には登録引率者制度があって、それがガイドとしての付加価値を高めている。引率者はもっとその価値を PR していくべきである。たとえ、料金を値上げしても、その付加価値があれば参加者の満足度に影響することはないと感じる。登録引率者制度をもっと利用者に認知させることが重要である。



環境省（渡邊）：いただいたご意見も踏まえ、1,000 円の値上げに了承いただいたとの理解でよろしいか。

一同：了承。

## 5) 利用調整地区 10 周年事業について

### 資料 5 利用調整地区 10 周年事業（案）（説明 / 知床財団）

- ✓ 来年度は利用調整地区の運用が 10 年の節目にあたる。ことさら特別な催しを行うのではなく、協議会やその構成団体が来年度行う諸事業について、10 周年の冠をつけて実施するという趣旨である。
- ✓ 1 つは、第 12 回カムイワッカ部会で提案された、道路沿線で野生動物との適切な接し方の啓発を目的とする「降車禁止キャンペーン」について、チラシやカードの配布を知床五湖で行いたい。
- ✓ 2 つ目は、知床財団の独自事業としてセルフガイドブックの作成と販売を考えている。
- ✓ ポケットサイズで約 50 ページ、内容は知床五湖の自然や歴史、見どころについてイラスト等を用いて紹介するもの。2020 年 8 月頃から五湖 FH や各ビジターセンター等での販売を予定している。
- ✓ 3 つ目は、継続的に実施しているローカル割引キャンペーンを引き続き実施する予定である。立入認定手数料割引キャンペーンは知床財団が負担する。駐車料金割引キャンペーンについては知床財団と自然公園財団だけが負担するのではなく、可能であれば、ユートピア知床からもローカル割引キャンペーンの協力を仰ぎたいと考えている。

環境省（渡邊）：セルフガイドブックの原案はすでに作られているのか。

知床財団（秋葉）：すでに原案は作成済みである。

知床財団（岡本）：セルフガイドブック 50 ページの内訳はどのようなになっているか

知床財団（秋葉）：動物、植物、地質や制度の記載があり、散策者が湖で写真を撮るだけでなく、散策中に使用できて、お土産として喜んでもらえるようなガイドブックを想定している。

ユートピア知床（上野山）：ローカル割引キャンペーンについて、協力できることがあれば検討したい。

環境省（渡邊）：資料には記載していないが、事務局として、園地の渋滞対策としてバスに乗り換えてもらえるような仕組み作りに取り組んでいきたいと考えており、今後あり方協議会等で提案させていただきたい。

知床財団（秋葉）：時期で言うと、ゴールデンウィーク等マイカー規制期間外の連休の混雑対策が求められている。選択肢として、マイカー以外の移動手段を充実する必要がある。

公園財団（古坂）：連休になれば、間違いなく来園者数は増える。3連休でさえ、渋滞が発生している状況である。駐車料金の売上にも関わることだが、利用者の選択肢として別の移動手段があるという仕組みにしていくことは重要である。

環境省（渡邊）：民間事業者により電動小型車の運用があったと聞いている。来年度も継続されるのか。

知床斜里町観光協会（喜來）：検討中と認識している。

知床財団（秋葉）：1人乗りの機材のため、混雑対策としては適していない。

## 6) その他

### 参考資料5 地上遊歩道の再整備スケジュールについて（説明 / 北海道）

- ✓ 今年度は当初1月31日に整備が終了する予定だったが、積雪が少なかったことから、1月20日頃に今年度の整備が終了した。
- ✓ 整備スケジュール通り2020年度は10月から小ループを整備する予定であり、小ループは9月末で供用を終了する予定である。
- ✓ 今年度行った整備箇所は、地上遊歩道入口からG地点（赤実線）までとなる。また、五湖と四湖に新展望台を設置した。
- ✓ D-E間の一部（赤点線）は来年度の運用から閉鎖するため、使用不可となる。
- ✓ 来年度は小ループと大ループの一部（緑実線）を整備する予定である。P地点からR地点にかけて新たにルートを整備する予定となっている。
- ✓ 冬期期間の整備であったため、凍結がなくなる春頃に調整作業をする。時期としてはゴールデンウィーク前を予定している。

環境省（渡邊）：全体を通して、意見・質問などあるか。

知床民宿協会（松田）：資料1-2内で、「7/26に高架木道でヒグマの目撃が頻発」と書かれているが、毎年同じ個体のヒグマが目撃されているのか。

知床財団（石名坂）：親子のヒグマ2組と単独個体と同じ時間帯に目撃されたと記憶している。内1組の親子の母グマは調査のため7年~8年前に標識（耳タグ）を付けた個体であり、このような個体を含む一部のヒグマは継続的に目撃されている。ヒグマ活動期中は、ヒグマ対策員

が現地調査を行うということはほとんどない。ヒグマ活動期においては、引率者からのヒグマ目撃アンケートを基に現地調査判断する機会が多いため、全ての個体を把握しているわけではない。しかし、標識（耳タグ）を付けている個体はもともと知床五湖周辺で生息している個体であることはわかっている。

**知床民宿協会（松田）：**ヒグマ活動期のヒグマ遭遇件数は今後も増加する見込みか。

**知床財団（石名坂）：**遭遇件数が 2018 年度から急増した理由として、比較的近い距離でツアーがヒグマに遭遇しても引率者がツアーを継続していることが挙げられる。具体的には、ヒグマと遭遇したツアーの後続ツアーが、付近で滞留している同一のヒグマに再度遭遇する状況が起きていると考えられ、これが「遭遇件数」としてカウントされているため、件数の増加に影響している。

**知床財団（石名坂）：**五湖の制度や人に慣れたヒグマは 2020 年度も目撃されると見込んでいて、引率者が大幅にツアー判断基準を変えない限り、状況は変わらないだろう。人為的に餌付くことさえなければ、人に慣れたクマが即危険な状況になるという訳ではない。うまく運用できれば、このまま無事故で継続できると思うが、ヒグマとの距離が近くなっているだけに突発的に危険事例が発生する可能性は常にある。

**知床民宿協会（松田）：**知床全体としてヒグマが見られるというのは観光客にとって魅力的である。観光客とヒグマとの遭遇はすでに日常的になりつつあり、車から「降りるな」という段階ではない。今後はどうのようにして、野生動物を安全に見せていくかを考えなければならない。

**知床財団（石名坂）：**我々もヒグマの追い払いには限界を感じており、「ヒグマを見たい」という観光客ニーズが高いことは理解している。ただし、知床は狭いため、人に慣れたヒグマがウトロ市街地に侵入してしまう可能性がある。今年度は 2 回ウトロ市街地に侵入したケースがあり、いずれも捕殺している。ヒグマを見せる方向性で進めるのであれば、ウトロ市街地の防衛力も高めなければいけないため、地域住民にはご協力をお願いしたい。

**環境省（渡邊）：**知床五湖の利用調整地区制度の趣旨が植生の保護とヒグマの生態保護であり、環境省としては現状のまま運用してヒグマの人慣れを助長させてしまうことがヒグマの生態保護に資することになるか疑問である。現状として、制度の趣旨と運用の実体が乖離してきていると感じている。ヒグマを見てもらいたいといった地域のニーズもふまえながら、今後制度の趣旨とどのようにすり合わせていくかが課題となっている。

**ユートピア知床（上野山）：**知床五湖の水道設備に関して、老朽化が進んでおり、シーズン開園前の水道設備立ち上げに際し、非常に苦勞している。今後、管理しやすいよう整備を進めてほしい。

**知床財団（秋葉）**：園地の運用を考えるにあたっては、インフラとしての水道施設の維持管理が最も重要であり、関係者で協力しながら維持しているものの、老朽化は深刻である。抜本的な設備の更新がなければ、いつ断水しても不思議ではない状況である。水道施設の所有者である斜里町に今後のあり方についてお聞かせいただきたい。

**斜里町（南出）**：斜里町として課題は認識しているが、具体的な対応方針は決まっていないため、来年度は現状の体制を維持していただきたい。来年度は環境省など関係機関を含めて管理の方針を協議していきたい。

**環境省（渡邊）**：水道施設の管理が特定個人の尽力で維持管理されていることは先日認識したところ。来年度は関係機関とともに現場を確認し、現状を把握したい。

以上